

## 耳鼻咽喉科領域における Bacampicillin の使用経験

吉田吉紀・八木沢幹夫・五味淵睦子・西尾 茂

日本医科大学附属第一病院耳鼻咽喉科

## はじめに

耳鼻咽喉科領域における抗生剤の使用は、大部分が短期間である。従って、病原菌の検索、感受性試験の結果を見ずに使用されるケースが殆どである。そのため我々は、常に少しでもより効果的な広範囲に効果を有する抗生剤を選択し、使用するよう心がけている。最近、Pc系製剤である Bacampicillin<sup>1)</sup> の提供を受け臨床的使用の機会を得たので、その成績を報告する。

## 使用対象

日本医科大学附属第一病院耳鼻咽喉科外来に通院せる患者より、無差別に、中耳炎10例、副鼻腔炎10例、扁桃炎5例を選択した。性別は男性13例、女性12例であった。年齢別では0～10才1例、11～20才0例、21～30才13例、31～40才2例、41～50才3例、51～60才3例、61才以上3例であった。

## 投与方法

原則的には1日3錠(750mg)(ABPC力価)を毎食後分服とした。但し幼児は、1日2錠を朝・夕分服とした。投与期間は5～10日間であった。

## 併用薬剤並びに併用療法

## 1. 併用薬剤

なるべく単独に使用したが、疼痛を伴うものには、非ステロイド系消炎剤を併用した。

## 2. 併用療法

## (1) 中耳炎の場合

全症例とも、耳内(鼓室内)を生理食塩水にて洗滌とした。その後、従来ならば、抗生剤(特にジベカシン、ゲンタマイシン等)の耳浴、点耳を行っていたが、投薬中はステロイド剤の耳浴・点耳とした。

## (2) 副鼻腔炎の場合

全症例に鼻処置とネブライザー療法を行った。なお、症例により必要に応じ、副鼻腔洗滌を行った。この際も、効果成績を正確にするため、洞内への抗生剤の注入は行

わなかった。

## (3) 扁桃炎の場合

咽塗布(プロタルゴール)のみとした。

## 効果判定基準

治療効果の判定は次の基準によって行なった。

著効(++)：自覚症状・他覚所見ともに消失したもの。

有効(+)：自覚症状が消失し、他覚所見に改善が認められたもの。

やや有効(±)：自覚症状が軽快し、他覚所見に改善が認められたもの。

無効(-)：自覚症状・他覚所見に改善が認められないか、増悪したもの。

## 臨床成績

中耳炎においては、10例中、著効3例、やや有効1例、無効6例で、有効率30%であった。副鼻腔炎においては、10例中、有効8例、やや有効2例で、有効率80%であった。また扁桃炎においては、5例中、著効5例で、有効率100%という結果が得られた(Table 1, 2)。全体としては、25例中、著効8例、有効8例、やや有効3例、無効6例で、有効率は64%であった。次に症例を例示する。

## 症例9 Y. I 45才 男

鼻閉、鼻漏、後鼻漏にて当科外来へ来院す。初診時：両鼻内膿汁⊕、鼻内粘膜・発赤⊕・腫脹⊕、両上顎洞穿刺洗滌、両側とも膿汁⊕、X-P：両側上顎洞陰影⊕、篩骨洞陰影⊕、起炎菌：ナイセリア菌

1日目：①鼻咽頭処置 ②ネブライザー療法 ③両側上顎洞洗滌(膿汁⊕) 鼻内所見は膿性鼻汁⊕

2日目：①鼻咽頭処置 ②ネブライザー療法 ③両側上顎洞洗滌(膿汁⊕) 鼻内所見は膿性鼻汁⊕と減少

3日目：①鼻咽頭処置 ②ネブライザー療法 ③両側上顎洞洗滌(膿汁⊕) 鼻内所見は膿性鼻汁⊕

5日目：①鼻咽頭処置 ②ネブライザー療法、鼻内所見は粘性鼻汁⊕となる。Bacampicillin 投与打ち切りとした。

Table 1 Clinical results of Bacampicillin

No.	Name	Age	Sex	Diagnosis	Organism	Sensitivity ABPC AMPC GM	Dose (g)	Side effect	Effect	Laboratory findings											
										S-GOT		S-GPT		Al-P		L D H		B U N		S-Cr.	
										B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A
1	TK	36	F	Acute paranas. sinusitis	<i>Strept. (α)</i>	# #	0.75×5=3.75	Anorexia	+	13	15	8	10	4.8	7.3	119	129	11.3	12.4	1.60	1.22
2	MY	24	F	"	"	# #	0.75×5=3.75	—	+	20	21	16	13	5.7	6.7	180	218	13.7	13.4	1.22	1.25
3	RI	25	F	"	"	# #	0.75×6=4.5	Anorexia	+	30	33	26	25	8.2	7.8	259	255	13.6	12.4	1.0	1.21
4	HO	24	F	"	"	# #	0.75×6=4.5	—	+	17	25	15	12	3.2	1.9	129	137	16.0	15.0	1.0	0.8
5	SI	76	F	"	"	# #	0.75×5=3.75	—	+	39	35	32	33	4.8	5.3	255	259	14.0	14.5	1.22	1.28
6	MO	37	M	"	"	# #	0.75×5=3.75	—	+	25	20	12	13	7.6	7.8	129	119	13.0	11.3	1.28	1.22
7	KT	28	M	"	"	# #	0.75×5=3.75	—	+	13	14	15	14	4.8	5.1	129	119	12.3	13.5	1.08	1.13
8	KN	28	M	Chronic paranas. sinusitis	"	+ #	0.75×7=5.25	—	±	35	35	30		6.8		260		13.0		1.31	
9	YI	45	M	"	<i>Neisseria</i>	# #	0.75×5=3.75	—	+	10	14	14	13	10.2	13.2	250	232	13.0	14.0	1.22	1.12
10	KN	25	F	"	—	# #	0.75×5=3.75	—	±	18	18	15	10	4.8	5.2	116	120	9.0	9.5	0.70	0.70
11	RK	25	M	Acute tonsillitis	<i>Strept. (β)</i>	# #	0.75×6=4.5	—	+	30	35	32	25			180	155	11.6	10.8	1.00	0.95
12	YT	28	F	"	<i>Strept. (α)</i>	# #	0.75×6=4.5	—	+	10	13	8	13	4.8	5.0	137	129	10.0	9.5	1.28	1.22
13	TK	65	M	"	<i>Strept. (β)</i>	# #	0.75×6=4.5	—	+	28	26	25	20	7.2	6.8	215	223	9.5	9.8	0.93	1.02
14	YT	29	M	"	"	# #	0.75×6=4.5	—	+	16	20	13	13	5.6	6.2	138	150	13.0	14.1	0.95	0.90
15	MO	60	M	"	<i>Strept. (α)</i>	# #	0.75×6=4.5	—	+	23	25	23	30	7.9	7.6			10.1	9.6		
16	TK	7	F	Acute otitis media	—	# #	0.50×10=5.0	—	—	15	18	13	18	6.7	7.1						
17	KN	29	M	Chronic otitis media	<i>Staph. albus</i>	# #	0.75×5=3.75	—	—	16	20	20	20	4.3	4.4						
18	TO	27	M	"	—	# #	0.75×10=7.5	—	±	18	20	12	15	4.7	4.6						
19	HO	24	M	"	<i>Staph. aureus</i>	# #	0.75×10=7.5	—	+	40	30	42	35	7.8	7.6			9.5	9.8		
20	SO	54	F	"	—	# #	0.75×5=3.75	—	—	18	15	21	23	6.6	6.8						
21	AS	59	F	"	<i>Staph. aureus</i>	# #	0.75×6=4.5	—	+	30	30	33	28	5.7	6.6			10.3	9.5		
22	TS	74	M	"	"	# #	0.75×6=4.5	—	+	23	25	28	27	8.1	7.6			13.0	11.8		
23	YT	43	F	"	"	—	0.75×6=4.5	Anorexia	—	40	30	35	35	6.8	7.3	259	260	15.2	14.6	0.95	0.96
24	KE	44	F	"	—	# #	0.75×6=4.5	—	—	18	15	21	13	4.6	5.3	190	201	13.3	14.5	1.00	1.00
25	KT	28	M	"	<i>Staph. albus</i>	# #	0.75×6=4.5	—	—	24	30	30	35	5.2	5.8	170	170	12.2	11.8	1.57	1.43

Table 2 Clinical effect of Bacampicillin in otorhinolaryngological field infections

Diagnosis	No. of cases	++	+	±	-
Acute paranasal sinusitis	7	0	7	0	0
Chronic paranasal sinusitis	3	0	1	2	0
Acute tonsillitis	5	5	0	0	0
Acute otitis media	1	0	0	0	1
Chronic otitis media	9	3	0	1	5
Total	25	8 (32)	8 (32)	3 (12)	6 (24)

(%)

## 考 察

中耳炎に対する有効率が30%と予想外の結果が得られた原因としては、1) 10例中4例が非細菌性であったこと、2) 1例は感受性試験の結果、Pc系薬剤無効であったこと、3) 抗生剤の投与が経口のみで、局所への使用をおこなわなかったこと等があげられる。慢性中耳炎(ことに難治性)といわれるのは、上記1)や2)のような中耳炎のことである。副鼻腔炎に対する有効率は80%という、ほゞ満足しうる結果が得られた。最近では、慢性副鼻腔炎の要手術例は減少し、今回の観察症例も、急性症例が7例と全体の70%を占めていたために、80%という高い有効率が得られたものと考えられる。なお、やゝ有効1例(No. 10)は投薬中止後、連日(6日間)両上顎洞洗

滌し、洞内 SBPC 1.0g と Dexamethasone sulfate Na 5.0mg 注入にて、鼻漏の消失を認めた。扁桃炎の場合は100%と実に完全なる効果を示し、最近 ABPC, Cephalosporine に耐性が出来、効果が薄れてきているときなので、この成績は注目すべきことである。

## ま と め

耳鼻咽喉科外来患者25例に対して Bacampicillin を使用した。

- ①患者年齢は7才から74才にわたり、性別では男性13例女性12例である。
- ②使用方法は成人では1回1錠、1日3錠(750mg)を原則とした。期間は5~10日間である。
- ③疾患別内訳は、中耳炎10例中有効症例は3例、副鼻腔炎10例中8例に有効であった。また、このうち急性症7例全症例に有効であった。扁桃炎でも5例全例に有効の結果を得た。
- ④近年 Pc系およびセファロsporin系抗生物質に対する耐性菌の出現が多く、臨床治療でも難航をきたす場合も多いことを考慮すると、この成績は注目に値する。

## 文 献

- 1) 第25回日本化学療法学会西日本支部総会、新薬シンポジウム Bacampicillin. 1977

CLINICAL INVESTIGATION OF BACAMPICILLIN  
IN THE FIELD OF OTORHINOLARYNGOLOGY

YOSHIKI YOSHIDA, MIKIO YAGISAWA, MUTSUKO GOMIBUCHI and SHIGERU NISHIO

Department of Otorhinolaryngology, The First Hospital, Nihon Medical School

- 1) In otitis media, response to treatment with bacampicillin could be obtained in 3 out of 10 cases.
- 2) In paranasal sinusitis, 8 out of 10 cases responded to bacampicillin. However, in acute cases, response could be obtained in all of 7 cases.
- 3) In tonsillitis, response could be obtained in 5 out of 5 cases.
- 4) As a whole, out of a total of 25 cases bacampicillin was found effective in 16 cases, with an efficacy rate of 64%. In acute cases, response could be obtained in 12 out of 13 cases, with an efficacy rate of 92.3%.
- 5) From these result, it can be concluded that bacampicillin is a highly valuable drug when used alone in the treatment of acute diseases.
- 6) The only side effect observed was mild gastrointestinal disturbance (anorexia).